ลมจากกรุงเทพฯ

バンコクの風

JSPS BANGKOK NEWSLETTER

2019-20 Vol.1

Choui Fong Tea Plantation
（チェンライ、タイ）

JSPS BANGKOK

CONTENTS

JSPS主催事業説明会の開催 01
バンコク研究連絡センターの主催セミナー・参加イベント 04
JSPS同窓会情報 08
特集「New Missions of the National Research Council of Thailand under the Ministry of Higher Education, Science,Research and Innovation (MHESI)」National Research Council of Thailand 09
センター活動記録 13
コラム 14
学術情報（2019年4月－6月） 17

巻頭言

センター長挨拶

バンコク研究連絡センターの活動報告書「バンコクの風」の２０１９年度第１号（２０１９年４－６月分）をお届けします。

１年前のこの号で、西日本を襲った豪雨への復旧支援をそっちのけで、国会では、参議院の定員増や、IR 法案（いわゆるカジノ法案）などが与党の強行採決で採択されたことへの憤りを書きました。これを書いている今、その参議院選挙が公示され、７月２１日が投票日です。国民の多くが今必要ないとしている憲法改正（特に自衛隊を第９条の中で明記する）を選挙の争点にすると安倍首相は言い、それに反対する野党を街頭演説で批判する安倍首相の姿をテレビの映像で見るにつけ、他に解決しなきゃならない問題がもっとあるだろうに、と思ってしまいます。新聞各社や NHK の事前の世論調査では、与党が過半数を確保するような有権者の投票動向のようですが、バンコクにいて歯がゆい思いがつのります。

今回の特集は、タイの科学技術省と高等教育局が合併して、５月に設置されることが決まった「高等教育・科学・技術・イノベーション（革新）省」の概要と、その中で中核的な役割を担うであろう「タイ学術会議（NRCT）」の役割についての紹介を、NRCT 国際部に執筆をお願いしました。JSPS は、１９７８年 NRCT と連携協定（MOU）を締結以来４０年以上わたって日タイの学術交流を進展させてきました。NRCT の地位向上は、歓迎すべきことですが、新しい省の名称にある「科学（Science）」が、とかく技術やイノベーションと結びついて、成果主義に陥るのではなく、すべてのサイエンス（学術）の基礎研究をも支援するものであってほしいものです。

２０１９年７月吉日

JSPS バンコク研究連絡センター長

山　下　邦　明

JSPS 主催事業説明会の開催

バンコク研究連絡センターは、タイを中心に担当国の大学等高等教育や研究機関を訪問し、JSPS 事業説明会を行っています。当センターが訪れた機関の紹介と事業説明会の様子をお伝えします。

メーファールアン大学で JSPS 事業説明会を実施（6 月 6 日）

タイ最北部チェンラーイ県のメーファールアン大学で JSPS 事業説明会を実施しました。
今回は約 20 名の方にご参加いただきました。
冒頭に同大学副学長の Dr. Sujitra Wongkasemjit から歓迎のご挨拶及び大学のご紹介をいただきました。

続いて、山下センター長から当会の概要説明、冨山副センター長から外国人研究者招へい事業、研究拠点形成事業等、各種国際事業の説明を行いました。

出席者からは、具体的な質問が寄せられ、当会の国際事業に対する関心の高さを伺うことができました。
そして、フェローシッププログラム経験者の Dr. Sutthiwal Setha から、当時の様子についてお話しいただきました。
参加者は、説明に熱心に聞き入っていました。

Dr. Sujitra Wongkasemjit（左）

Dr. Sutthiwal Setha

（JSPS Bangkok Office ホームページ：http://jsps-th.org/2019/06/06/7795/）

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

JSPS 主催事業説明会の開催

チェンマイ大学で JSPS 事業説明会を実施（6 月 7 日）

2019 年 6 月 7 日（金）、タイ北部チェンマイ県にあるチェンマイ大学で JSPS 事業説明会を実施しました。

同大学は 1964 年に設立された国立総合大学です。今回の事業説明会は約 25 名の方にご参加いただきました。

説明会に先立ち同大学副学長の Dr. Sampan Singharajwarapan を表敬訪問し、当会事業の近年の採択状況等について情報交換しました。

Dr. Sampan Singharajwarapan（右から 3 人目）

説明会では、山下センター長・冨山副センター長から当会の概要・同窓会組織の説明をいたしました。また、臼井・濱端両国際協力員から各種国際事業の説明を行いました。参加者は、説明を熱心に聞き入っていました。

その後、当会の論博事業経験者である Dr. Phonpat Hemwan と、研究拠点形成事業経験者である Dr. Wasu Pathom-aree に、ご自身の経験をお話しいただきました。

２人のお話から、日本の研究者や学生と交流することで、ご自身の研究に大きなプラスになったことがうかがえました。

Dr. Phonpat Hemwan

Dr. Wasu Pathom-aree

JSPS Bangkok Office ホームページ：http://jsps-th.org/2019/06/07/7798/）

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

JSPS 主催事業説明会の開催

カセサート大学で JSPS 事業説明会を実施（6 月 28 日）

2019 年 6 月 28 日（木）、カセサート大学カンペンセンキャンパスで JSPS 事業説明会を実施しました。

カセサート大学は 1943 年設立の国立総合大学です。タイで最初の農業大学であり、現在、最も規模が大きい大学の 1 つに数えられています。

冒頭で同大学の Asst. Prof. Dr. Tiwa Pakoktom から、歓迎のご挨拶をいただきました。挨拶の中で、JSPS には事業ガイダンスを例年実施してもらっており、JSPS の手厚い研究助成について、今年も多くの情報提供を期待しているとお伝えいただきました。

続いて、冨山副センター長から当会の概要・同窓会組織等の説明をいたしました。また、臼井・濱端両国際協力員から各種国際事業の説明を行いました。

左から Dr.Suratwadee Jiwajinda, Dr. Tiwa Pakoktom

そして、論博事業経験者の Dr.Suratwadee Jiwajinda から、ご自身の経験に基づいたアドバイスをいただきました。

質疑応答では、多数の質問をいただきました。特に、ホストとなる日本人研究者をどのように探せばいいのかに関心が集まっていました。

Dr.Suratwadee Jiwajinda からも、体験に基づいた補足説明をいただくなど、参加者にとって有意義な説明会となりました。

（JSPS Bangkok Office ホームページ：http://jsps-th.org/2019/06/28/7810/）

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

バンコク研究連絡センターの主催セミナー・参加イベント

バンコク研究連絡センターでは、対応機関であるタイ学術会議（NRCT）と学術セミナーを共催しているほか、バンコクで実施される国際的な学術シンポジウムやイベントに積極的に参加し、ASEAN地域の最先端の学術情報の収集に努めています。

アジア太平洋経済社会委員会（UNESCAP）を見学　（4月24日）

2019年4月24日（水）、当センターを先日訪問された、Nguyen Quynh Houngさんのご案内で、アジア太平洋経済社会委員会（UNESCAP）を特別に見学させていただきました。

UNESCAPは、国際連合の主要機関である「経済社会理事会」が担当する地域経済委員会の一つです。アジアと太平洋地域の経済発展、および開発のための調査・研究や勧告等で大きな成果を挙げています。また、本部をバンコクに設置しています。

最初に、UNESCAPに関する詳しいご説明と質疑応答をいただきました。複数の日本人スタッフが勤務されており、国際的な業務にそれぞれ従事されているとのことでした。

その後、国際会議場や専用図書館、コワーキングスペースなど、様々な場所をご案内いただきました。移動する中でも、UNESCAP職員の方々が、国籍を超えて、熱心にディスカッションしている様子を垣間見ることができ大変印象的でした。

今回の見学は、Nguyen Quynh Houngさんはもちろんのこと、以前から同氏と連絡を取り合っていた、2018年度の国際協力員のご協力があって実現しました。この日は、人的ネットワークを作ることの大切さを学んだ1日でもありました。

（JSPS Bangkok Office ホームページ：http://jsps-th.org/2019/04/25/7701/）

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

タイ高専 KOSEN-KMITL 開校式・入学式に出席　（5 月 12 日）

2019 年 5 月 12 日、キングモンクット工科大学ラカバン校で開かれた、タイ高専 KOSEN-KMITL 開校式・入学式に出席しました。

産業発展の著しいタイでは、技術者の育成が急務とされています。

タイ高専は、日本型高専教育（KOSEN）モデルを取り入れ、即戦力となる実践的創造的技術者の育成を行うため開校されました。

日本側にも、日本式の教育を輸出することで、日系企業のニーズに応える人材を供給するほか、日タイ交流をはじめとしたメリットがあります。

この日は、日本から、高専機構の校長をはじめ多くの関係者が駆けつけ、盛大な開所式・入学式となりました。

開所式・入学式のなかで、谷口高専機構理事長から「学生には、高専スピリットを持って欲しい」という言葉がありました。タイ高専の学生は、日本式の教育によって専門知識や技術者として必要な学問知識や技術を学びます。更に、タイ高専が用意する学習プログラムを通して、国際感覚に長けた創造的なリーダーとなることが期待されています。

谷口高専機構理事長

（JSPS Bangkok Office ホームページ：http://jsps-th.org/2019/05/12/7829/）

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

在タイ日本国大使館・JASSO 主催「JUNE Fair」に参加　（6 月 3 日）

2019 年 6 月 3 日（月）、在タイ日本国大使館で開催された JUNE Fair に参加しました。

JUNE Fair は、在タイ日本国大使館と日本学生支援機構（JASSO）が共催しているイベントです。日本政府国費外国人留学生（研究留学生及び学部留学生）のタイ国内申請期間に合わせて実施することで、日本への留学を促進することを目的としています。

JUNE Fair 初日となった当日は、20 近い大学・日本語学校等がブースを設けました。
さらに資料コーナーでは、ブースを出展していない機関のパンフレットも、数多く入手することができます。

タイの祝日にも関わらず、多くの学生がイベントを訪れ、各ブースの説明を熱心に聞き入っていました。

（JSPS Bangkok Office ホームページ：http://jsps-th.org/2019/06/03/7886/）

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

第 19 回在タイ大学連絡会（JUNThai）に出席　（6 月 25 日）

2019 年 6 月 25 日（火）、在タイ日本国大使館で第 19 回在タイ大学連絡会（Japanese Universities' Network in Thailand: JUNThai）が開催され、当センターから山下センター長、冨山副センター長、臼井国際協力員、濱端国際協力員の 4 名がオブザーバーとして出席しました。

第 19 回在タイ大学連絡会でも、多くの大学関係者の参加がありました。

水谷　光一 氏

第 1 部の講演会では、以下 2 件の講演が行われました。

・「TNI が受け入れている日本人学生のタイでのインターンシップ事例」
　泰日工業大学学長室産学連携担当 水谷　光一

・「バンコクの都市鉄道の現状と課題」
　Managing Director A21 Consultant Co.,Ltd. Dr. Surasak Taweesilp

Dr. Surasak Taweesilp

第 2 部の連絡会では、以下の事柄に関して、協議および意見交換がなされました。

・京都大学が、5 番目の幹事校を引き受けること。
・５つの幹事大学同士で、今後、幹事大学の役割について協議すること。
・規約等のない現状を踏まえ、今後、適切な組織としての JUNThai の体制を検討していく必要があること。

（JSPS Bangkok Office ホームページ：http://jsps-th.org/2019/06/25/7820/）

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

バンコク研究連絡センターは、日本学術振興会の国際交流事業で訪日経験のある研究者の組織である「JSPS 同窓会」の支援も積極的に行っており、現在管轄地域内に同窓会が組織されているタイ・バングラデシュ・フィリピン・ネパール・インドネシア JSPS 同窓会の活動支援、また、ベトナム・マレーシアでの新規同窓会設立に向けても支援を行っています。

2019 年度第 1 回 JSPS タイ同窓会（JAAT）理事会に出席（5 月 15 日）

2019 年 5 月 15 日（水）、今年度第 1 回目の JSPS タイ同窓会（JAAT）理事会をタイ学術研究会議（NRCT）で開催しました。

冒頭、タイの新年を祝う催しがありました。タイの伝統様式に則ったもので、JSPS をはじめ、JAAT や NRCT のメンバーが参加しました。

理事会では、主に以下の点について議論を行いました。

理事会では前回（2019 年 2 月 21 日開催）の JAAT 理事会及び総会の議事録の承認の他、新規加入理事の承認、会計報告、今年度開催予定の「JSPS-NRCT-JAAT 共催シンポジウム」の開催時期・テーマ等について議論が行われ、JSPS-NRCT-JAAT 共催シンポジウムは、今年の秋に開催することを確認しました。

タイの新年を祝う催し

（テーブル左から）Jiraporn 副会長、Porphant 会長、Busba 前会長、山下センター長

（JSPS Bangkok Office ホームページ：http://jsps-th.org/2019/05/15/7724/）

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

今年５月、タイ政府は、教育省の下にあった高等教育局と、科学技術省を合併させ、新しく「高等教育・科学・研究・イノベーション省」（MHESI）を設置することを決定しました。それに伴い従来内閣府のもとにあった「タイ学術会議（NRCT）」は、この新しい省に移り、学術研究支援の中核的な組織として変貌することになりました。

今回の特集は、NRCT 国際部に新しい省の概要、NRCT の役割について、ご執筆をお願いしました。今後のタイとの学術交流を進める上で、ご参考にされてください（山下邦明 JSPS バンコクセンター長）

※寄稿の記事・論文、図表、写真等の著作権は執筆者に帰属しています。無断複製又は無断転載はおやめください。

New Missions of the National Research Council of Thailand under the Ministry of Higher Education, Science, Research and Innovation (MHESI)

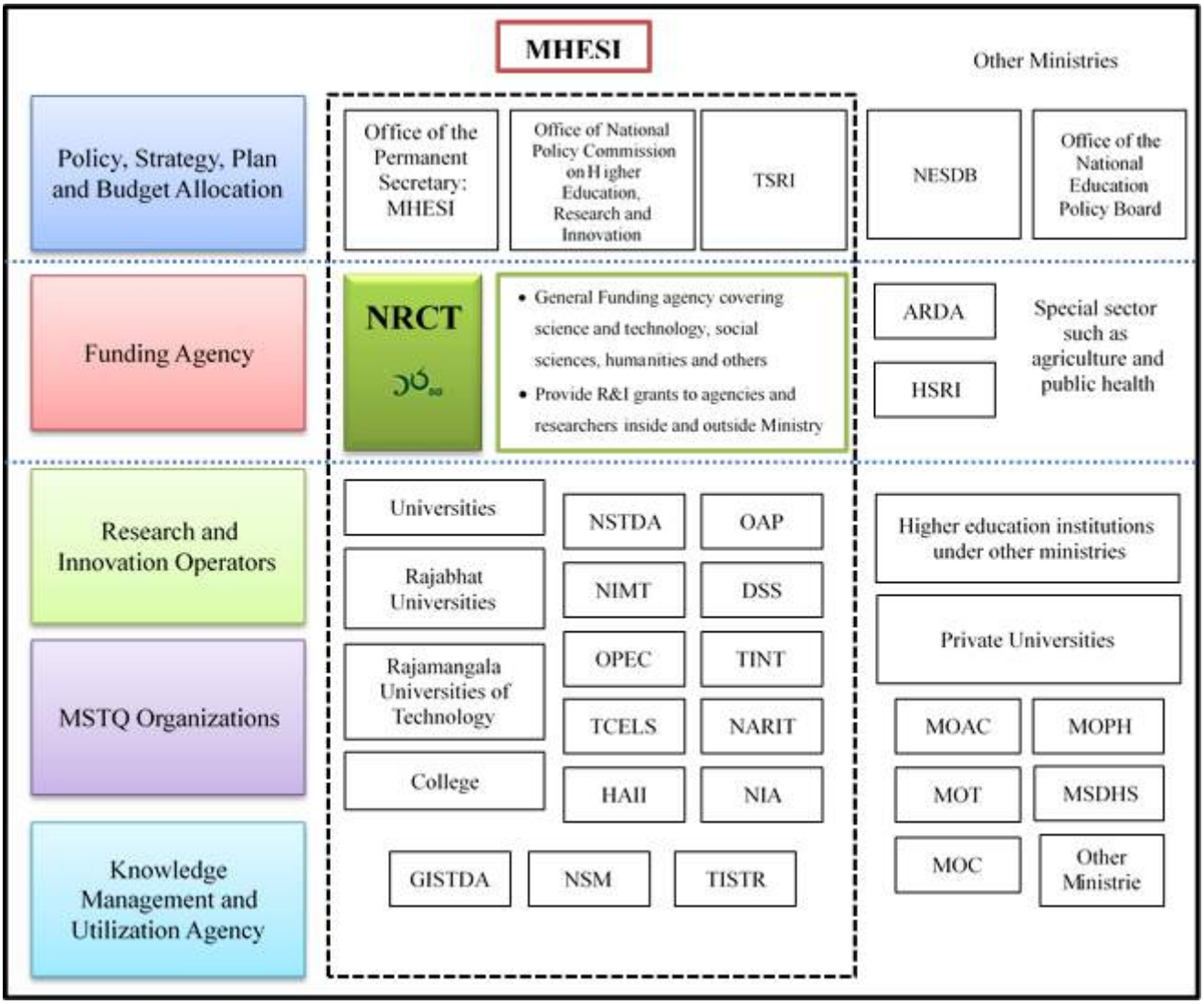
National Research Council of Thailand

The Government is taking steps to reform the research system in Thailand. In relation to this, the establishment of the Ministry of Higher Education, Science, Research and Innovation (MHESI) debuted on 2 May 2019.

This establishment has led to significant advancement in alignment of 4 major agencies, namely, the Ministry of Science and Technology, Office of Higher Education Commission, the National Research Council of Thailand and Thailand Research Fund. The new ministry combines the functions in research, science and education under the same umbrella serving as a tool to support Thailand 4.0 strategy in terms of research and innovation direction setting; efficiency of research and development budget allocation; promoting the development and use of research and innovations in socioeconomic aspects and producing human resource in research and innovation in response to industrial needs.

The organizational structure of the MHESI is comprised of the Office of the Permanent Secretary; the Office of National Policy commission on Higher Education, Science, Research and Innovation; the National Research Council of Thailand; Thailand Science, Research and Innovation; Universities and Institutions of Higher Education; the Department of Science Service; the Office of Atoms for Peace and the Research Institutes in MHESI. Five functional dimensions of bodies involved in the research system are as follows:

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.



Since the Thai Government has put research and innovation at the heart of the country development, an ambition is set for Thailand to become “the Developed Country” and to increase its total R&D expenditure to 2% of GDP. Reaching the target will require concerted effort by both government and business. Thus, MHESI will work with the Government to develop a plan to meet this target, maximize the impact of public investment in research and innovation, and support business and other partners to invest more. In this consequence, there are three main agencies to formulate policy, strategy and plan for higher education, science, research and innovation of the Ministry. They are as the following.

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

1. *Office of National Policy Commission on Higher Education, Research and Innovation,* who acts as Secretariat to the National Policy Commission on Higher Education, Science, Research and Innovation. The Commission is responsible for the integration of policy on higher education, science, research and innovation.
2. *Office of the Permanent Secretary* who acts as Secretariat to the Commission of Higher Education and Commission of Higher Education Standards. The Commission is responsible for formulation of policy and enhancement of higher education plan.
3. *Thailand Science, Research and Innovation (TSRI)* who acts as Secretariat to Science, Research and Innovation Promotion Commission. The Commission is responsible for formulation of policy, research and innovation roadmap (science, social science, humanities, other sciences and interdisciplinary studies) and budget allocation for research and innovation.

As for research and innovation funding, in order to achieve country's goals and enhance effective and efficiency budget management, MHESI will allocate research and innovation budget to assigned funding agencies. The National Research Council of Thailand (NRCT) will be the main national funding agency for research and innovation in all fields of natural and social sciences, and humanities leaving only research funding on agriculture and health system to Agricultural Research Development Agency (ARDA) and Health Systems Research Institute (HSRI) respectively.

NRCT, in its new role, also covers other key missions: initiating and managing national key research and innovation programs; managing national databases and indicators on science, research and innovation; formulating and managing national research standards and ethical conducts on research; disseminating and transferring research knowledge to relevant stakeholders for commercial, social, and economical benefits; supporting development of human resource on research and innovation; and providing awards and recognition of research and innovation.

NRCT aims to be an outstanding funding organization to ensure that the nation maintains its leading position in research and innovation by creating funding system that maximizes the contribution of each of the component parts and creates the best environment for research and innovation to flourish. Therefore, NRCT has proposed new implementation guidelines, "**NRCT 5G**", to encounter the global challenge and meet its ambition to increase the effectiveness of national research and innovation funding system. Firstly, NRCT is to provide "**multi-year funding**" for science, research and innovation based on achievement. Secondly, NRCT's funding purpose and priorities is to set on **"outcome and impact driven"** based on national strategic issues. Thirdly, NRCT is to provide "**Synergy and partnership**" with group of funding agencies, universities

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

and research institutes. The funds are intended to significantly develop all scientific research from basic to applied research, in all fields, ranging from humanities and social sciences to the natural science and interdisciplinary. Last but not least, NRCT is to create and sustain the process of healthy and dynamic research and knowledge exchange system by providing **“streamlined process”**: 100% online funding management; funding a range of research including program funding and matching fund; online-monitoring and evaluation by research users; targeted delivery teams and outcome delivery units.

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

センター活動記録

バンコク研究連絡センターの 2019 年 4 月から 6 月期のその他活動は以下のとおりです。センターにはタイ及び ASEAN 諸国との学術の国際交流を目的とし、日本やタイの研究者や高等教育関係者が訪れます。当センターは訪問者への現地での便宜供与や学術情報の交換・助言を行っています。詳しい活動記録は当センターウェブサイト（http://jsps-th.org/）に掲載しておりますのでご参照ください。

4 月

1 日　九州大学　木村拓也准教授、江口潔准教授の来訪

5 日　大阪大学　久田 ASEAN 拠点長、藤山生物工学国際交流センター長の来訪

10 日　京都大学 ASEAN 拠点　森井職員、斎藤副所長の来訪

22 日　立命館大学博士後期課程　Nguyen Quynh Houng さんの来訪
在タイ日本国大使館　久芳全晴一等書記官の来訪

5 月

9 日　HR　Japan　藤井代表理事、武井職員の来訪

14 日　九州工業大学　西野教育企画係長の来訪
日本医療研究開発機構　シンガポール事務所　堀所長の来訪

16 日　京都大学 ASEAN 拠点　縄田所長らの来訪

28 日　三重大学　西村副学長らの来訪

6 月

4 日　関西大学　国際事務局国際連携グループ武市課長らの来訪

24 日　岡山大学　村田芳行教授らの来訪
明星大学　内田富男教授の来訪

25 日　京都工芸繊維大学　橋本国際課長の来訪

26 日　日本学生支援機構　山本留学生事業計画課長らの来訪

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

コラム

今号より、国際協力員２名によるコラム「国際協力員の東南アジア見て歩き」を掲載させていただきます。初めてのバンコクで生活から、タイをはじめ周辺の東南アジア諸国の旅行記をお届けします。

国際協力員の東南アジア見て歩き①　臼井国際協力員のラオス・ヴィエンチャン旅行記

今回私がお送りするのはヴィエンチャン旅行記です。旅の始まりはラオスの首都ヴィエンチャンへはバンコクから寝台列車を利用し、陸路で移動することができると知ったことでした。寝台列車、陸路で国境超えという響きにワクワクし、旅の準備が始まりました。

寝台列車はタイ国鉄のウェブサイトから予約購入することができます。サイトは英語版も用意されているため、外国人でも簡単に操作することができます。

今回利用したのはバンコク、フアランポーン駅 20 時発ラオス国境の町ノンカイ翌朝 6 時 25 分着の 2 等の寝台席。2 等寝台には女性専用車両があり、女性の一人旅でも安心です。座席には他にも 1 等、3 等席があり、3 等席は寝台ではなく通常の座席タイプになります。

列車には食堂車も備わっており、少し割高ですが簡単な食事をとることが出来ます。
列車の出発と同時に食堂車で夕飯を食べ、座席に戻るとすでに座席が寝台に整えられていました。シーツも枕カバーも真っ白で清潔。寝転がるとしっかり足も伸ばせて広さも十分。走る列車の心地よい振動もあり、翌朝までぐっすり眠ることができました。目的地の到着する直前、車窓には移る緑濃い田園風景が美しく、印象的でした。

列車はほぼ定刻にノンカイ駅に到着。タイ側からメコン川を越えてラオスに渡るタイ－ラオス友好橋へは駅から徒歩 15 分程。この友好橋は徒歩では渡ることが出来ないため、出国手続きをすませたら専用のバスに乗り橋の向こう、ラオスの国境の町タナレーンへ向かいます。バスの乗車時間は 10 分弱ほどでしたが、初めての川国境越えは感慨深いものでした。

タナレーンからヴィエンチャン中心地までは路線バスを利用して 40 分ほどで移動できます。

メコン川に面するラオスの首都ヴィエンチャンは、印象としてはタイの地方都市といった規模の都市で、鄙びた魅力があります。見どころも、多くの旅行者が宿泊する市内中心部から主だった観光スポットが半径 3 キロほどに集まっており、自転車やバイクをレンタルして巡るのが定番となっています。私も自転車をレンタルしメコン川や凱旋門・パトゥーサイ、黄金の寺院・タートルアンなどを巡りました。

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

バンコクの喧騒を束の間離れ、のんびりした観光旅行を楽しむことができました。

（写真・記事　　国際協力員　臼井　真希）

国際協力員の東南アジア見て歩き②　濱端国際協力員　チェンマイと「寝ること」

中公新書、柿崎一郎著「物語　タイの歴史」によれば、チェンマイは、13 世紀にマンラーイ王が基礎を築いたと言われています。中でも、「ワット・チェーディー・ルアン」は印象的でした。城壁の中を歩いていくと、地元住民のアパートの合間から突如出現する巨大な仏塔です。茶褐色の塔は趣があり、どっしりとした迫力がありました。

しかし、困ったこともありました。途中、体調を悪くしてしまったのです。初めての出張で体力が落ちていたのかも知れません。タイは、病人には少々つらいところがあります。熱帯の気候なので、暑く、湿度もかなり高いです。歩くだけで汗が噴き出てくるし、どうしても、しかめっ面になってきます。暑さが得意な人でも、これは辛いです。

そんななか、チェンマイで涅槃像を見ることができました。これは、お釈迦様が入滅（簡単に言うと亡くなること）する様子を、像にして表したものです。タイの各地で見ることが出来ますが、大体の場合、座に寝そべり、かなり穏やかな表情をされています。
ここで、疑問がひとつ浮かびました。それは、仏教の入滅のシーンは、なぜ「寝る」のかという疑問です。宗教であれ何であれ、物語では、主人公が死ぬ、などのクライマックスにあたる部分は印象深く描かれます（たとえば旧約聖書では、キリストは苦しみながら十字架に磔にされます）。宗教の中の話ですから、意味があって描かれているに違いないです。でも、なぜ入滅のシーンでは、普通に寝ることになったんだろうと、疑問に思いました。

しかし考えてみると、暑くじめじめした気候のなか、タイでは穏やかに眠ること自体が難しかったのかも知れません。疫病もありました。だからこそ、仏教という物語は、煩悩を捨てると、こんなに穏やかな表情や心持ちになれるのだ、と伝えたかったのだと思います。それが故に、この入滅の「ポージング」になったのかも知れないと考えるようになりました。

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

私は宗教に詳しくないので、まったくの私見になります。しかし、いつも仕事をしている都心（エアコンが効いています）を出て、チェンマイの寺院に触れることで、タイの歴史や、タイの仏教に思いを馳せることができたような気持ちになりました。

涅槃像@アユタヤ

ワット・チェーディー・ルアン

（写真・記事　　国際協力員　濱端　悠佑）

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

■タイ教育省職業教育局（OVEC）、5 年以内に職業訓練学生の比率を一般学生と同等に

タイ教育省職業教育局（Office of the Vocational Education Commission:OVEC）は、一般学生と職業訓練学生の比率を同等にするという目標を 5 年以内に達成できると見込んでいる。

OVEC 事務局長 Suthep Chittayawong 氏は 2019 年 4 月 14 日、以前は、職業訓練学生は大学生よりも劣ると認識されていたが、タイの学生の技術教育に対する態度は変化しており、中学校卒業後に職業訓練教育を選択する学生の数は近年急増していると述べた。

2016 年には職業訓練学生の割合は 31%だったが、2017 年には 36%、2018 年には 40%に上昇、今年中には 45%を越える見込みであるという。

Suthep 事務局長は職業訓練学生の増加はタイ政府による若者の職業訓練教育のイメージを向上させる取り組みが功を奏したと評価する。

「OVEC は数年に渡り職業訓練教育推進のためのカリキュラムの改善と民間セクターの参加を増やすいくつかの新たな取り組みを実施してきた。例えば"Tawisuksa" 事業は学生が一般科目と同時に技能コースも受けることを可能にするもので、卒業時に学術、技術双方の認定証を得ることができるため、学生を職業訓練教育履修に引き付ける一助となった。また、"双方向" 教育制度は、職業訓練校での理論学習と民間会社での実習を結び付けるもので、卒業するには学生は少なくとも 1 年間、民間会社での実習経験を積まなければならない。」

Suthep 事務局長はさらに、まだ職業訓練教育に対する偏見は残っている一方、学生も親も現代の労働市場で技術力を持った働き手への需要が高まり続けていることに気づき始めており、状況は改善しているという。

また、テクノロジーが学生の考え方も変化させており、最近は多くの学生が“必要ない”科目を学ぶために 4 年間を大学で費やしたくないと考えている、とも述べ、この潮流が続けば 2024 年までに一般学生と職業訓練学生の比率は 50 対 50 に達する見込みであるという。

OVEC によると、今学年度は 30 万人以上の学生が職業訓練教育に登録している。

（2019 年 4 月 15 日 Bangkok Post 紙）

■大学を超えた学びを可能にする新制度

タイ教育省は高等教育課程の学生が大学を越え、またインフォーマル教育を通して学際的に学ぶことが出来る新たな制度を開発している。

タイ高等教育局（The Office of Higher Education Commission：OHEC）は高等教育課程の学生が学士号取得や卒業証書を得る資格を有したまま学部を超えて、更に複数の大学で学ぶことを可能にする教育省の“学習単位バスケット（Study Credit Basket）”制度の草案を承認した。

OHEC 局長 Prasart Suebka 氏は、学生は年齢に関係なく大学を超えて単位を取得することができると述べた。

学位取得のための単位を集める期限にも制限はない。さらに、学生は学位取得のための単位としてインフォーマル教育を登録することもできる。

OHEC によれば、このシステムは、教育を単一の教育機関の教室に限定しない生涯学習体験にすることを目的としている。

しかし、Prasart 局長は、この新制度はカリキュラム標準を規制する教育委員会による監査を受けなければならないと述べた。

また、大学間での効果的な単位交換を管理する明確な基準を定める必要があるほか、インフォーマル教育の提供源は、彼らが学生に伝える知識が標準的な基準を満たしているか評価を受ける必要がある。

（2019 年 4 月 20 日 Bangkok Post 紙）

■教育省 労働市場の研究に 1 千万バーツ

タイ政府は、労働市場の需要を特定し、雇用の拡大や、若者の適切なキャリアパス選択を支援するための調査に 1 千万バーツを使うことを決定した。

Teerakiat Jareonsettasin 教育大臣は今週、タイ開発研究機関（Thailand Development Research Institute：TDRI）と労働市場の需要に関する調査を行うことについて協議を行ったと語った。教育省は、教育技術開発基金（Office for Educational Technology Development Fund：EdTech Fund）を通じて 1 千万バーツの資金援助を行う。
Teerakiat 大臣は「この調査は、雇用者側がどのような職種に人を求めていて各職種にどのような技能が必要なのかを調べ、教育機関、特にタイ教育省基礎教育局（Office of Basic Education Commision：Obec）が所管する機関がそれに応じた訓練に適応できるようになるためのものである」と述べた。

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

知識を伝える

TDRI はすでに初期段階の調査を実施しており、Teerakiat 教育大臣はこれらの研究は Obec、高等教育局（Office of Higher Education Comission：OHEC）、職業教育局（Office of the Vocational Education Commission：OVEC）などの関連機関に引き継がれて更に分析、発展され、学生たちに役立てられる予定である。

「学生は将来のキャリアを計画するための能力を高め、教師は関連する授業を準備できるようになる」と Teerakiat 教育大臣は述べた。

Obec 主任の Boonrak Yodphetch 氏は、「中等教育課程の学生はどのような職種に高い需要があり、彼らが従事したい仕事にはどのような技能が求められているのかを知ることができる。Obec はこの TDRI 研究から最も恩恵を受けるであろう。この研究により集められた情報は、地域教育委員会（educational service area offices）、学校長、そして職業指導や教室の教師にも伝えられるだろう」と語っている。さらに「これまでの調査によれば、もはや就職口の 4 分の 1 は学歴ではなく職業経験と技能を要求している。」とのことである。

Boonrak 氏はさらに、教育省は Obec に対し、学校の休暇中に良いアルバイトを選択し、卒業後により良い一歩を踏み出すことができるような短期研修コースを中等教育課程の学生に提供できるかどうかを検討するよう命じていると述べた。

（2019 年 4 月 25 日 The NATION 紙）

■1,300 億バーツ以上を新“イノベーション省”へ

タイ政府は、高等教育、研究およびイノベーションの新しい省に少なくとも年間 1,300 億バーツの予算を割り当てる予定である。科学技術省（Ministry of Science and Technology）、高等教育局（Office of Higher Education Commission：Ohec）を含む複数機関を統合した新省を設立する法案はすでに国家立法議会（National Legislative Assembly：NLA)を通過している。同法案は 2019 年 6 月 25 日まで、または、NLA の承認後 90 日以内に王室の認可を得る必要がある。

Udom Kachintorn 教育副大臣は 4 月 24 日、現在新省のための資金について予算局と協議段階にあり、新しい省は通常の業務に加えて研究開発のための資金配分を行うため、少なくとも年間 1,300 億バーツが必要であると述べた。

また、科学技術省と Ohec の現在の年間予算は 1,300 億バーツだが、新省にはタイ学術会議（National Research Council of Thailand：NRCT）とタイ研究財団（Thailand Research Fund：TRF）も統合されるため、さらに多くの予算が必要になるという。

Udom 教育副大臣はこの省には研究開発予算も必要であると述べ、新省の設立準備は 70%完了していると付け加えた。プラユット首相は 2021 年までに研究開発費を GDP の 1.5%に伸ばすことを目指すと発表しているが、現時点では GDP のおよそ 0.4%または 0.5%にとどまっている。

内閣府は新省の設立を新政府の結成後、王立官報（Royal Gazette）で公表したいと考えており、その場合、新省の大臣は新内閣の一員として名を連ねることとなる。

「しかし、王室による承認が現政権下で行われた場合、新省の担当大臣は、現政権によって任命される」と Udom 教育副大臣は述べている。

（2019 年 4 月 25 日 The NATION 紙）

■新しい研究開発省　80%準備完了
6 月に稼働予定

研究開発と技術革新を所管する新しい省が 6 月に設立される。

2019 年 4 月 24 日、Udom Kachintorn 教育副大臣は新省、高等教育科学研究イノベーション省（The Higher Education, Science, Research and Innovation Ministry：MHESI）の準備状況について、80%準備が完了しており、新省設立に関する法律が施行され次第、始動する予定であると内閣府に報告した。Udom 副大臣はさらに、国家立法議会は 3 月 25 日、新省に関する 10 の法律を承認したと述べた。政府はこれら 10 法律を今年 6 月に王立官報で公表する予定としている。もし法律が 5 月に公表された場合、政府は新省を指揮するための暫定大臣を任命する必要が出て来るであろう、とのことである。

Udom 副大臣は、新政府が樹立した時に準備を確実にできるよう、プラユット首相が新省の詳細を練るための Prajin Juntong 副首相を議長とする特別委員会を創設したと述べた。さらに、政府は新省の 2020 年度予算に 1,300 億バーツを割り当てているが、研究開発予算は年度予算とは別になり、独立した基金が後程設立される予定であるという。

首相が議長を務める研究技術革新政策委員会（The Council on Research and Innovation Policy）はまた、研究開発政策を監督するために設立される予定である。

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

国立科学技術イノベーション政策事務所（The National Science, Technology and Innovation Policy Office）は最近、自動車、食品、石油部門をリードして、付加価値の高い製品を生産しようとしている大企業の主導によりタイの研究開発費は 2017 年に GDP の 1%に達したと報告した。

タイは研究・技術革新基金、熟練した研究開発、そして食料と栄養、航空宇宙、農業および循環経済の最先端研究への移行を通じて、2021 年までに GDP の 1.5%、2026 年までに GDP の 2%または 3,400 億バーツを達成することを目指している。

タイの研究開発費は 2018 年に GDP の 1%に達すると見込まれていたが、1 年早く目標に到達した。

（2019 年 4 月 25 日 Bangkok Post 紙）

■NRCT 新体制への準備完了

Dr. Sirirurg Songsivillai 事務局長が率いるタイ学術研究会議（The National Research Council of Thailand：NRCT）は新たに組織された高等教育科学研究イノベーション省（The Higher Education, Science, Research and Innovation Ministry：MHESI）のもと、 タイの主要な資金配分機関である“National Research Thailand”となることが Centara Grand and Bangkok Convention Center※1 で公表された。

※1 タイ学術研究会議（NRCT）が主催した Thailand Research EXPO 2019 （2019 年 4 月 7 日～10 日）の会場。

（2019 年 5 月 1 日 Bangkok Post 紙）

■学生ローンで後押し

政府は大学または職業訓練校で 10 の対象産業と 3 つの基本的な基盤産業に関連する分野で学ぶことを選択した学生の学生ローン借入元金を 30%～50%削減するため、85 億バーツを拠出する予定である。

財務政策局（Fiscal Policy Office：FPO）の Lavaron Sangsnit 事務局長は 2019 年 5 月 7 日、約 15 万人の学生がこの恩恵を受けるだろうと述べた。

Lavaron 氏はさらに、この基金はまた、通常の利子率が年間 1%のところ、これらの分野で学ぶ学生には 0.5%しか課されないとも述べた。

対象となる 10 のエスカーブ産業はスマートカー、スマートエレクトロニクス、医療・健康ツーリズム、農業・バイオテクノロジー、食糧、産業用ロボット、ハイテク物流・航空、バイオ燃料・バイオケミカル、デジタル、および医療サービスである。また、鉄道、商船、物流が 3 つの基本的基盤産業である。

Lavaron 氏はこれらの動きは減速する経済を支えるための景気刺激策の一環であると述べた。

（2019 年 5 月 8 日 Bangkok Post 紙）

■EEC のために開発された STEM プログラム

シェブロン・タイ（※1）とケナン財団アジア（※2）は、東部経済回廊（EEC）の労働需要を満たすために STEM（科学、技術、工学、数学）の教師と学生のための新しいプログラムを開発するために手を組んだ。

これらの未発達分野のプログラムはまもなく教育省に提案される予定である。

シェブロン・タイの Artit Krichphiphat ジェネラルマネージャーは、両法人は共同で訓練プログラムに 5 年間にわたり総額 100 億バーツを拠出してきたと述べた。「我々にはこの科学事業を通して教師の効率性を向上させるという目的がある。」

EEC の主力体制には、新卒者が対象産業で働くことのみでなく、STEM 科目を効率的に教えることが出来る能力のある教師も必要となる。

「教育的研究機関の学生と教師はより高度な技術と技術革新に慣れることが期待されている。」と Artit 氏は述べた。

この訓練プログラムは全国 600 の中等教育学校と職業教育学校、約 1 万人の教師と 50 万人の学生が利用できる。

Artit 氏によれば、このプログラムの開発は 5 年目を迎えており、主に EEC のために高い技術力をもった労働者を生み出すことを目的としている。

ケナン財団の会長である Piyabutr Cholvijarn 氏はこのプログラムの開発中、設計と互換性のために他の企業や機関から協力を得たと述べた。

「新技術や技術革新に対応できる労働者が不足しているため、STEM 分野に新入生を惹きつけたい。雇用者は大卒者よりも職業訓練を受けた人材を EEC に雇用したがっている。」と Piyabutr 氏は語った。

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

シェブロンとケナン財団はナコンラチャシマー、コンケン、チェンマイ、ソンクラーの 4 県に技術教育および職業教育の訓練拠点を設置した。

EEC の Kanit　Sangsubha 事務局長は今後 5 年間で EEC への労働需要は 47 万 5 千人から 50 万人に達すると述べた。2019 年だけでも 5 万人が新たに EEC に加わった。

EEC は経済特区として振興され、自動車、スマートエレクトロニクス、医療・健康ツーリズム、　農業・バイオテクノロジー、食糧、産業用ロボット、物流・航空、バイオ燃料・バイオケミカル、デジタル、医療サービス、防衛、教育開発の 12 の対象産業から新たな投資の流れ引き付けている。

Kanin 氏は、タイは熟練労働力の不足に苦しんでおり、この問題を早急に解決する必要があると述べた。

※1　石油関連企業

※2　NPO 法人

（2019 年 5 月 13 日 Bangkok　Post 紙）

■機械工学分野　日本からの後押し

キングモンクットラカバン工科大学（King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang：KMITL）は東京に本部を置く国立高等専門学校機構（KOSEN National Institute of Technology：KOSEN）と共に、東部経済回廊（EEC）を支えるエンジニアを供給する機械工学プログラムをオープンした。

KMITL 学長、Suchatvee　Suwansawat 氏は「すでにトップ成績の 24 人が 2019 学年度新入生として選ばれている。」と語った。学生たちは新たにバンコク西部の KMITL 内に開校した KOSEN－KMITL で 5 年間機械工学、機械工学、機械電気工学のスキルを磨く。学生たちはまた“多彩なエンジニア”となるべく、科学以外の科目履修や活動も行う。

KMITL 工学部長の Komsan　Maleesee 氏によれば、卒業生はディプロマを取得可能であり、卒業後にタイや海外の大学で 2 年間学ぶことで学士号を取得することもできる。Komsan 氏は、彼らはまた日本の企業でインターンを経験することになるので、タイと日本の専門家と学び、働くことは非常に良い経験になるだろうと述べた。

一方、Suchatvee 氏は KOSEN-KMITL は“東部経済回廊計画の下でのタイの産業とイノベーション開発にも最適”になるだろうと述べた。政府は次世代自動車やスマートエレクトロニクスといった 10 の重点産業を東部のラヨーン、チョンブリ、チャチュンサオ 3 県に誘致することを計画している。タイは経済の発展のため、より多くのエンジニアを必要としているが、日本もまたタイに主要な生産地となることを期待していると Suchatvee 氏は語った。

（2019 年 5 月 13 日 Bangkok　Post 紙）

■教育省の効率はその大きさにより損なわれる

教育再生独立委員会（Independent　Committee for　Education　Reform：ICER）は 2019 年 5 月 14 日、教育省は大きくなりすぎたため、管理上の問題を抱えていると指摘した。

ICER 委員の Chaiyuth　Punyasavatsut 氏は「教育省は 40 万人から 50 万人を雇用しており、これは非常に大きな労働力である。教育省は学生数減少という事実を考慮すべきである。」と語った。

出生率の低下に直面し、学生数は当然減少する見込みであり、近年いくつかの私立学校が廃校となったことはよく知られている。

Chaiyuth 氏はまた、教師と教育事務所の異動に関する苦情を聞いたと述べ、教育省には管理上の問題もあると指摘した。

「これに加え、予算、権力及び責任は分権化されるべきであるにもかかわらず、教育省には権力が集中し過ぎている。」さらに教育政策の継続性の欠如と非効率さを強調して、「教育の提供（サービス）と管理において主要な働きをすべきである地方の割り当て機関はタイの教育目標到達に失敗している。」と述べた。

Chaiyuth 氏は ICER 会長の Charas　Suwanwela 教授が議長を務める会議から姿を現し、語った。

ICER によると、教育省は人材採用及び任命について他者に委ねるべきである。また、カリキュラムと各分野に適した学術内容を準備するための新たな機関も設立するべきである。

Chaiyuth 氏はさらに「我々はさらに学校が質の高いサービスを提供できるよう、適切な予算と十分な独立性を与えることを提案する。」と述べた。

Chaiyuth 氏曰く、ICER は国民教育法案を通じ教育部門の改革を後押ししてきた。しかしながらこの法案は現政権の在任期間中には成立しなかった。Chaiyuth 氏はさらに、政府が執行令により法案を後押ししてくれるという望みは打ち砕かれた、と語った。

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

Charas 教授は 4 月末、政府は残された時間が少ないことに気づき、この法案を執行令によって成立させようとしていたが 5 月初めにその計画を放棄したと述べた。

基礎教育委員会の議長、Ekachai　Keesookpun 氏は 5 月 14 日、計画が廃止されたことを嘆き、「政府が重要な教育法の成立を急いでいるという批判を避けたいということは理解する。しかし、法律案が議会に提出されれば、その本質が大幅に変わってしまう恐れがある」と述べた。

Charas 教授はさらにタイの教育改革にとって重要なこの法案が現政権の在任期間中に成立しなかった場合、その法が立法化されるまで少なくともう 1 年は待たなければならないだろうとも指摘した。

「関連する他の教育関係法案の成立にも影響するだろう。国は教師法案や教育人事評議会のような法律が可決されるのをさらに 3 年間待たなければならないだろう」と Charas 教授は付け加えた。

（2019 年 5 月 15 日 The　NATION 紙）

■大学で最も人気のある分野は経営学

2019 学年度のタイ大学統一入学制度（Thai University Central Admission System：TCAS）(※1)の申請者にとって最も人気のある分野は経営学であった。例年人気のあるマスコミと教育分野は今年の上位 5 位以内には入らなかった。

2019 年 5 月 22 日、タイ大学長会議（Council of University Presidents of Thailand：CUPT）の議長 Suchatvee　Suwansawat 氏は次のように述べた。

「社会科学の分野は理系分野より依然人気があるが、マスコミと教育は明らかにその魅力を失ったようだ。前者は多くのメディア企業が倒産している事実が影響しているだろう。CUPT は次年度の人気学部分析のために人工知能（AI）を用いる予定である。」

Suchatvee 氏は、最初の 3 ラウンドを終えて、2019 年度 TCAS には約 20 万人の空席が残っており、まだ入学を決めていない学生にはチャンスがあると話す。

さらに、「これはまた、“ビッグ・データ”分析がタイの大学入学システムに適用された最初の事例であり、学部および学科レベルの明確な詳細を公にしている。さらには大学の定員が受験生数よりもかなり多く、タイの大学はより競争力を持つよう、大学自身を順応させる必要があることを明らかにした。」と述べた。

今年は全 5 ラウンドで 91,340 の教育プログラム、445,364 席の定員を募集している。　募集定員の内訳は以下のとおり。

学生ポートフォリオに基づく第 1 ラウンド：67 機関 130,140 人

クォータ制に基づく第 2 ラウンド：99,033 人

直接入試に基づく第 3 ラウンドで：95,124 人

統一入試に基づく第 4 ラウンド：70 機関 91,340 人

独立直接入試による第 5 ラウンド：29,727 人

最初の 3 ラウンドで合わせて 151,806 の合格者及び入学確定者を獲得した。　第 4 ラウンド（応募期間 5 月 9 日から 19 日まで、5 月 29 日に結果発表予定）は 91,340 の定員に対し 76,408 の申し込みがあった。　第 5 ラウンド（応募期間　5 月 30 日から 6 月 10 日まで）は多くの空席が用意されており、第 4 ラウンドまでで決まらなかった志願者や TCAS に参加しなかった多くの大学も利用可能であると Suchatvee 氏は話す。

第 3 ラウンドで最も人気のあった上位 5 位のプログラムは、カセサート大学経営学部財務学科（Department of Finance in Kasetsart University (KU)'s Business Administration Faculty）（定員 30 人に志願者 3,151 人）、続いて同じ学部のマーケティング学科（Department of Marketing）（定員 30 人に志願者 2,723 人）、カセサート大学人文学部英語学科（KU Humanities Faculty's Department of English Language）（定員 25 人に志願者 2,620 人）、タマサート大学経済学部経済学科（Thammasat's Department of Economics in the Faculty of Economics）（定員 240 人に志願者 2,599 人）、シーナカリンウィロート大学看護学部看護コース（nursing programme at Srinakharinwirot University's Faculty of Nursing）（定員 65 人に志願者 2,179 人）　という結果であった。

CUPT の事務局長代理 Peerapong　Triyacharoen 氏によると、第 4 ラウンドで最も人気のある上位 3 コースは、プリンスオブソンクラー大学看護学部看護コース（Prince of Songkhla University's

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

Faculty of Nursing）（定員 96 人、志願者 1,188 人）、

ブラパ大学看護学部看護コース（Burapha University’s Faculty of Nursing）（定員 352 人、志願者 1,128 名）とチュラロンコン大学保健関係科学部医療技術コース（Chulalongkorn University’s Faculty of Allied Health Sciences）（定員 110 人、志願者 1,178 人）であった。

※1 2018 学年度から採用されたタイの大学入試制度。年に５ラウンド、異なる種類の入試を実施し、各大学・学部はどのラウンドに参加するかを選ぶことができ、学生は志望校が参加するラウンドに申請する。

（2019 年 5 月 23 日 The NATION 紙）

■タイ教育の衰退を逆転させる方策

教育再生独立委員会（Independent Committee for Education Reform：ICER）は同委員会がこの 2 年間で行ってきた提案を実現させれば、数十年に渡るタイの教育水準の下降を上向きに変えられると考えている。

ICER の 2 年の任期が 2019 年 5 月 31 日に終了するのに先立ち、ICER 会長 Charas Suwanwela 教授は、「我々は教育部門に向けた明確なガイドラインを提案してきた。」と述べた。ICER は国家教育法（National Education Bill）、教育機会均等基金法（Equitable Education Fund Act）および幼児教育法（Early Childhood Act）といった法律制定を提案してきた。

「私たちはまた、教育革新のための分野を特定した。」と Charas 教授は述べた。

ICER は、教育改革の取り組みを主導するために 2 年前に設立された。 タイの学校教育で改革が非常に必要とされていることは広く受け入れられている。 教育の質は、より多くの財源とより大きな予算が割り当てられているにもかかわらず、ほとんど改善を示さなかった。

「過去数十年にわたり教育の質で多くの国がタイを上回ってきた。この傾向は容認できない。」と Charas 教授は話す。

Charas 教授は委員会の改革のためのガイドラインは今後 4 年から 5 年にかけて教育部門を改善することが出来ると考えている。

改革のタスキを渡す準備をしている Charas 教授は新しい政府は教育問題に注意を払い、積極的に解決策を追及するべきであると強調した。「学校では暗記学習が優勢であるがその結果、学習到達度調査（PISA）と国際数学・理科教育調査の一部でタイの平均点が全体の平均点を下回ることとなった。」

Charas 教授は、タイの職業訓練学校の卒業生も未熟であると指摘し、さらに、タイの高等教育機関も国際レベルで競争することはできないと語る。さらに、教育に多くの資源が費やされたにもかかわらず質の向上は見られず、間違った態度と知見による失敗を非難すると述べた。

「多くのタイ人が依然として大学の学位が個々の能力よりも重要であると信じている。社会はまた、質の高い教育を提供することは国の義務であると考えているが、実際にはすべての人が貢献するべきである。」と Charas 教授は語った。

国家教育法案を策定した特別 ICER 委員会の議長 Jiruth Sriratanaban 氏は、ICER は教育の不平等を減らし、競争力を高めることを目的としていると述べた。

Jiruth 氏曰く「教育機会均等基金は助けを必要とする子どもへの支援を開始している。」

この基金の事務局は昨年末から基礎教育局（Office of Basic Education Commision: Obec）と緊密に連携し、家庭の経済事情で学校を中退しなければならない可能性がある学生に追加の資金を提供してきた。

Jiruth 氏は、幼児教育法は、関連省庁がそれぞれの取り組みを統合し、確実に、幼少期から子どもに良い世話を提供するためのものであると述べた。さらに、ICER は多くの優れた取組を行ってきたものの任期の終了までにそれらを完了することはできなかっとしつつ、「目に見える結果がすぐに表れるようになるだろう。我々は関係機関が将来、これらの取組を支援してくれることを願う。」と語った。

Jiruth 氏はまた、一般市民も過程に関わる国の機関や組織を身近に監視することで学校改革に貢献することができると述べた。

（2019 年 5 月 27 日 The NATION 紙）

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

■タイはゲノム研究・医療分野の競争力を強化する

タイは５年以内にゲノム医療分野において ASEAN のリーダーを目指す。

保健大臣の Piyasakol Sakolsatayadorn 氏は 2019 年 6 月 7 日、5 年間のタイ統合ゲノムプラン（Integrated Genomics Thailand Plan）のため、すでに 44 億 7 千万バーツの予算が確保済であると述べた。

ゲノミクスはゲノムの構造、機能、マッピング、編集を研究する生物学の学際的な研究分野である。

Piyasakol 大臣は 6 月 7 日、Genomic Thailand Inception Workshop の会場で、ゲノムテクノロジーはより効率的な診断を可能にするだろうと述べた。このイベントには、国立科学技術開発庁（National Science and Technology Development Agency：NSTDA）、タイ生命科学センター（Thailand Centre of Excellence of Life Sciences: TCELS）、保健省医科学局（Medical Sciences Department）、および高等教育科学研究

イノベーション省（The Higher Education, Science, Research and Innovation Ministry：MHESI）といった関係各機関の代表者が出席し、2020 年から 2024 年までのタイ統合ゲノムプランの実施について話し合った。

Piyasakol 大臣によれば、タイではすでに 5 万人のゲノム調査を実施しており、サンプルには健康な人の他、ガンやいくつかの難病患者といった様々なグループが含まれている。

さらに、個人単位の非常に正確で高品質の医療サービスの提供を目指し、ゲノム研究・開発のためのセンターがブラパ大学（Burapha University）に設立される予定であるという。

Piyasakol 大臣は、「ゲノムは医療コストの削減にも貢献し、タイの国際競争力を高める助けにもなるだろう。来年中には目に見える結果が現れるはずである。」と語った。

（2019 年 6 月 10 日 The NATION 紙）

■タイの３大学　国際ランキング順位を上げる

イギリスに拠点を置く教育およびキャリアコンサルティング会社である QS による 2020 年 QS 世界大学ランキングでタイの大学 8 校のうち 3 校がランキングを上げた。

チュラロンコン大学（Chulalongkorn University：CU）は 7 年連続でタイの大学ではトップとなり、昨年の 274 位から 24 位順位を上げ、247 位であった。2 番目に順位の高かったマヒドン大学（Mahidol University）は昨年から 66 位順位を上げて 314 位、3 位のチェンマイ大学（Chiang Mai University）は 651－700 位から 601-650 位に順位を上げた。

一方他の 5 大学は昨年と同じランクを維持した。タマサート大学（Thammasat University）は 601-650 位、カセサート大学（Kasetsart University）、キングモンクットトンブリ工科大学（King Mongkut's University of Technology Thonburi）、コンケン大学（Khon Kaen University）およびプリンスオブソンクラー大学（Prince of Songkla University）は 801-1000 位であった。QS ランキングでは 500 位以下の大学は特定の順位を付けていない。チュラロンコン大学学長の Bundhit Eua-arporn 氏は、チュラロンコン大学は今年多くの分野で高いスコアを獲得しており、このランキングは大きな成果であると語った。

Bundhit 学長は「チュラロンコン大学は 7 年連続でタイの大学内でトップになった業績を誇りに思っている。」と述べた。

QS は 9 万 4 千人の研究者と 4 万 4 千人の職員の調査と 1180 万の研究論文と 1 億の引用分析により、82 地域、1,000 大学を順位付けした。

大学は以下の 6 つの要素に基づき評価される：学術的な対外評価（40%）、雇用者からの評価（10%）、教員－学生比（20%）、教員あたりの論文引用数（20%）、外国人教員の比率（5%）留学生の比率（5%）

今年のランキングでは 1 位マサチューセッツ工科大学（Massachusetts Institute of Technology：MIT）、2 位スタンフォード大学（Stanford University）、3 位ハーバード大学（Harvard University）、4 位カリフォルニア工科大学（California Institute of Technology：Caltech）という結果であった。

アジアのトップ 2 大学はともにシンガポールのシンガポール国立大学（National University of Singapore）と南洋理工大学（Nanyang Technological University）が占め、11 位であった。

中国は世界トップ 200 研究大学のうちの 19 大学を占め、2016 年の 12 大学から躍進している。

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

シンガポールとタイを除く東南アジアでは、マレーシアのマラヤ大学（Universiti Malaya）70 位、マレーシア・プトラ大学（Universiti Putra Malaysia）159 位、マレーシア国民大学（Universiti Kebangsaan Malaysia）160 位であった。

インドネシア大学（Universitas Indonesia）は 296 位、ブルネイ・ダルサラーム大学（Universiti Brunei Darussalam）は 298 位であった。

（2019 年 6 月 21 日 Bangkok Post 紙）

■タイ大学統一入学制度成功も 20 万人以上の定員割れ

2019 年 6 月 23 日、タイ大学長会議（Council of University Presidents of Thailand：CUPT）の議長 Suchatvee Suwansawat 氏は、タイ大学統一入学制度（Thai University Central Admission System：TCAS）は全 5 ラウンドが“非常に成功”して終了したにも関わらず、20 万人以上の定員割れとなっており、タイの大学が真剣に向上する必要があることを反映している、と述べた。

CUPT は 7 月中旬、91,340 コース、445,364 定員を用意して 12 月に始まった 2019 年度 TCAS の結果について、公式な見解を発表する予定である。

Suchatvee 氏は、大学入試の分析として、“ビッグ・データ”が使用されたのは初めてのケースであり、なぜ受験生が特定の学部を選んだり、入学を辞退したりするのか、といった行動理由が明らかになると、語った。

初期段階の情報からは学生ポートフォリオに基づく第 1 ラウンドでは受験者数が最も多く、クォータ制に基づく第 2 ラウンドでは最多の合格者が出た一方で、最終第 5 ラウンドでは辞退者の数が最も少なかったことが明らかになっている。

8 月、CUPT は TCAS システムの改善と第 1，2 ラウンドで複数コースの受験生が他の受験生の機会を阻害する問題の解決方法について、大学や関連機関を招き、ブレインストーミング会議を開催する。

Suchatvee 氏はまた、大学の研究プロジェクトが国のニーズに応え、国家戦略に対応するためのガイドラインと評価基準の策定のため、高等教育科学研究イノベーション省（The Higher Education, Science, Research and Innovation Ministry：MHESI）の大臣を招き、特別協議を実施すると述べた。

議長は、CUPT は大学に対し、より研究に力を入れ、新しい予算規則を守る準備をするように呼びかけてきたし、大学に対して、タイの多岐に渡るニーズ（特に農業と産業部門）や、分野横断的、大学横断的な研究提案を予算配分のためにどのように準備すべきかについて伝えてきたと述べた。

（2019 年 6 月 25 日 The NATION 紙）

■大学の機能強化に関する協定を締結

タイ健康促進財団（Thai Health Promotion Foundation: ThaiHealth)は 2019 年 6 月 27 日、マヒドン大学（Mahidol University）と、ASEAN 大学ネットワーク（ASEAN University Network：AUN）の分野別ネットワークの一つであるヘルスプロモーションネットワーク事務局（Health Promotion Network：HPN）との間で、AUN 加盟大学の機能強化に関する協定を締結した。

この協定のもとでは、900 万バーツが AUN および HPN に供与される。この金額は、AUN 加盟大学の取り組みにおいて、学生、スタッフ、そして大学を取り巻くコミュニティの活動環境整備のために使用される見込みだ。

健康的に活動ができる環境整備に関する ASEAN 諸国ランキング(The Asean Rating on Health University : ARHU)もまた、加盟大学の整備状況を評価するために用いられる。禁煙の働きかけや受動喫煙ゼロの場所を増設する取組み、健康に過ごすことができる環境の創出、そして地元のコミュニティとの活動促進など、２２の指標で加盟大学を判定する。大学の状況に応じて、星１つから５つまでのいずれかが、各大学に評価として付される見込みだ。

AUN は、10 の ASEAN 諸国から、30 の大学が加盟している。

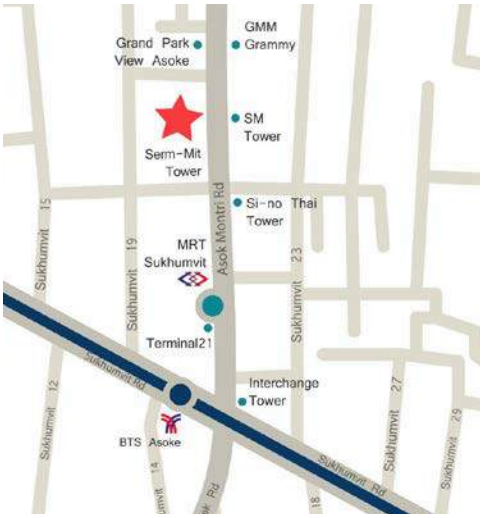
（2019 年 6 月 28 日 Bangkok Post 紙）

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.

日本学術振興会バンコク研究連絡センター　アクセス＆コンタクト

アクセス

高架鉄道（BTS）Asoke 駅、1 番出口から徒歩 5 分
地下鉄（MRT）Sukhumvit　駅、1 番出口から徒歩 5 分



コンタクト

1016/1,　10th　floor,　Serm-mit　Tower,　159
Sukhumvit　Soi　21,　Bangkok　10110,　Thailand
Tel　+66-2-661-6533　　Fax　+66-2-661-6535
Website:　http://jsps-th.org　　Email:　jspsbkk@jsps-th.org
facebook:　JSPSBangkok

■　表紙写真紹介

Choui Fong Tea Plantation（チェンライ、タイ）

　タイ北部のチェンライ県はお茶の産地として有名です。今回の表紙はチェンライの観光茶園・Choui Fong Tea Plantation です。どこまでも続くお茶畑の，のんびりした風景が広がっています。

■　編集後記

２０１９年度第１号となる「バンコクの風」をお届けいたします。

今回の特集記事では「高等教育・科学・研究・イノベーション省のもとでのタイ学術会議の新たなミッション」と題し、日本学術振興会のカウンターパートナーであるタイ学術会議国際部の方々にご寄稿いただきました。

タイ政府は研究とイノベーションを国の発展の要と位置付け、「タイランド 4.0」戦略を強化すべく、タイ科学技術省（Ministry of Science and Technology：MOST）、タイ高等教育局（Office of Higher Education Comission：OHEC）、NRCT およびタイ研究財団(Thailand Research Fund：TRF)を統合し、「高等教育・科学・研究・イノベーション省」を設立しました。新省のもと、タイ最大のファンディングエージェンシーとなる NRCT についての詳細は 9 ページからの特集記事にてご確認ください！

また、今号からは国際協力員 2 名によるコラム「国際協力員の東南アジア見て歩き」が始まりました。拙い文章ではございますが、ご一読頂ければ幸いです。

（バンコク研究連絡センター　国際協力員　臼井　真希）

JSPS バンコクニュースレター「バンコクの風」
監修：山下邦明　編集長：冨山大
編集担当：臼井真希

Copyright © JSPS Bangkok Office. All rights reserved.